

## 1 山梨県内公共図書館の概況 <令和3年度>

市町村立図書館の新館建設及び施設面等の動きとしては次のようなものがある。5月、富士川町は、国合同庁舎1・2階に町立図書館を新設することを発表。開架延べ床面積約790㎡、蔵書数10万冊で、2023年に開館を予定している。南部町は、町立富沢図書館の老朽化に伴い、旧富河中学校校舎を改修して11月に移転開館した。面積は約376㎡。今後、放課後児童クラブや町教育支援センター等も入る複合施設となる予定である。北杜市ながさか図書館は、複合施設の改修工事のため12月～3月まで休館し、隣接する長坂総合支所に臨時窓口を設置した。施設内にはコワーキングスペースが設けられた。

10月、甲州市立勝沼図書館「カムカムクラブ」が博報賞を受賞。小学3、4年生がアニメーションにより読書の楽しさを知り図書館について学ぶことで、読書活動の活性化を進めていることが評価された。また、韮崎市立大村記念図書館ほかは、開館10周年記念企画としてノーベル医学生理学賞を受賞した大村智氏による講演会「読書と私」を開催し、『読書と私 「腹中有書」のすすめ』を刊行。3月まで、記念展示やポイントカードの発行、10年後に開封するタイムカプセルなど各種イベントを開催した。

図書館の閉館の動きもあった。笛吹市境川図書室は1月末に閉室し、境川支所で予約資料の貸出等を実施している。また、上野原市立図書館秋山分館が3月末に閉館したため、その後は移動図書館でのサービスに移行した。

県立図書館の動きとしては、4月、「図書カフェ by 白州・山の水農場」がオープンした。5月には交流エリアが、県の感染症防止対策の基準「グリーンゾーン認証」を満たす施設として認証された。11月、「第8回贈りたい本大賞」として、応募総数4,281点から大賞3点を決定し、表彰式を行った。表彰式後、いとうせいこう氏と金田一秀穂館長によるトークショー「言葉にすること」を開催した。12月、山梨に関する情報を発信するポータルサイト「発見!やまなしナビ」の改ざんが発見され、公開を停止した。1月、県立甲府工業高校の生徒が製作した木製ブックトラック3台が寄贈された。2月、マーシャ・クラッカワー氏講演会&金田一館長とのトークショーを開催した。

その他の動きとして、6月、山梨県は、県内各地の図書館を拠点に、地域の歴史文化に関する情報を収集・継承するため、資料、音声、映像データなどをアーカイブ化する「山梨ふるさと記憶遺産プロジェクト（仮称）」構想を発表した。

日本図書館協会、山梨県、甲府市ほかは、11月11・12日を中心に、第107回全国図書館大会山梨大会を開催した。テーマを「知をつなぐ、甲斐（交ひ）の国から」として、集英社の堀内丸恵会長と山梨県立図書館の金田一館長による対談等の全体会と、全16分科会をオンラインで開催・配信し、交流サイトも開設された。全国から1,400人を超える参加があった。

新型コロナウイルス感染症の影響は依然として続いている。山梨県の特別協力要請により各図書館でも開館時間の短縮、サービスの制限などの対応を取ってきた中、8月6日、県は新型コロナウイルス特措法に基づく緊急の協力要請を発出し、多くの公共図書館がこれに基づき臨時休館し予約資料の貸出のみ実施するなどの対応を取った。その後、山梨県にまん延防止等重点措置が適用され、各図書館は予定していた休館期間を延長した。9月にまん延防止等重点措置が解除されたが、開館時間の短縮、入館人数の制限や入れ替えの実施、入館時の検温や手指の消毒、座席数の制限、一部サービスの停止、イベントの中止や延期など、制限と緩和を繰り返しながらサービスが行われている。

### 2021年度にかかる新型コロナウイルス感染症対応の動き

令和3年 8月6日 山梨県、新型コロナウイルス特措法に基づく緊急の協力要請を発出

8月20日 山梨県にまん延防止等重点措置が適用

9月12日 山梨県のまん延防止等重点措置解除

以降、山梨県は「新型コロナウイルス感染拡大防止への協力要請」を継続して発出